

地球発

和僑タイムス

世界を股にかける「和僑ネットワーク」。各国に在住する特派員（ちょっとカッコよすぎ？）が現地で仕入れた生の情報を提供します。海の向こうから届く異国の風を感じてください。

情報提供：和僑辞典 <http://www.wakyo.net/>



アルゼンチン発 「習慣の違いが勘違いを生む」

アルゼンチンの首都ブエノスアイレスは、南米のバリという異名をもつほどヨーロッパ的な美しい街並みを誇っています。最近では遠く離れた日本からも、観光や短期・長期滞在でたくさんの方が訪れるようになりました。何と言っても広い地球の裏と表。習慣の違いも大きく、戸惑いを感じる人が多いようですね。よく挙げられるのが街ゆく女性にかけられる賞賛の言葉。こちらでは一方的にそういった言葉をかけるのが礼儀となっており、本当に話しかけようとしているわけではないのですが、それを真に受けて、会話をしようとする「ど、どうしたんだ!？」と逆にヒックリされてしまいます。

また、タンゴ好きの女性たちがタンゴサロンに出かけても、だれも踊ろうと声をかけてくれません。しかし、落胆するに及ばず。日本のように踊りましょと近づいてくるのではなく、少し離れたところから目でサインを送ってくるのです。ストレートな誘いよりも意味深な目配せのほうが大人のムードがあると思いませんか？

さまざまに違いに面食らいながらも、いつしか、愛きょう満点でもおてなし上手、そしてゆっくりとした時間を楽しむおらかなアルゼンチンの人柄に魅了されていきますよ。

相川知子 / アルゼンチン・ブエノスアイレス在住

相川 知子 プロフィール
会社名：Business Argentina Japon
住 所：Av. Scalabrini Ortiz 2455, 5"B",
C.P.1425, Capital Federal, Argentina
Tel & Fax：54-11-4831-3656/4833-4194
E-mail：tomokoar@hotmail.com
URL：http://www.geocities.co.jp/
/Milkyway/6461/
事業内容：ビジネス、マスコミ、文化、滞在コーディネーション。
通訳、翻訳、スペイン語、日本語、異文化レッスン。なお、日本人とアルゼンチン人の文化交流、社会活動交流を深めるため財団を設置中。

インドネシア発

「残りの料理を次の客に回すパダン料理」

「西スマトラ州」と聞いてもご存知ない人がほとんどでしょう。でもパダンと聞けば、「ああ、あの辛いパダン料理か」とインドネシアに行ったことのある人なら分かると思います。もう少しインドネシアに詳しい人は、とんがり屋根の家が印象的な地方だなと思ひ浮かべるでしょう。この地方の人たちは首都ジャカルタで衣料品の販売をしていることでも有名です。歴史的にもなかなか興味深い所で、地理的条件からイスラムがいち早く上陸したため、戒律の厳しい地方となっています。今回はちょっとユニークなパダン料理をご紹介します。

パダン料理店はすべてファストフードシステムで、客を待たせません。席に着くとすぐに注文取りのボーイさんが来ますので、あごを料理の方にフンツとしゃくれば、あれよあれよという間に料理が乗った小皿の山が目前にできます。いったい金額はいくらになるのかと気になるのですが、自分が食べた分だけ払えばよいので、それほど心配することはありません。では、余った料理はどうなるのか？ そうです。次の客に回すのです。ですから、半分食べただけでも残りの半分以上を汚らしくしておくと、次の客に回せなくなり、全額徴収されてしまいます。話のネタに一度チャレンジしてみてもは。

田口重久 / インドネシア・西スマトラ州在住

田口 重久 プロフィール
会社名：日本工営株式会社 プラント事業部
職 業：鋼構造物の技師 技術士(建設部門)
住 所：c/o Nippon Koei Jakarta Office Jl.
Sultan Hasaduddin No. 45, Kebayoran
Baru, Jakarta
Tel：+62-21-726-0556
E-mail：taguchis@centrin.net.id
URL：http://www.geocities.com/
omdoyok/welcome.htm
事業内容：大型公共土木プロジェクト(ダム・水力発電所)の計画・実施。特に大型水門やパイプライン。

カンホシア発

「宴会と化すことも多い“カタン”」

こちらでは雨期のことを「雨安居(うあんご)」と言い、7月から10月までの約3カ月、僧侶は寺からあまり離れずに、静かに読経をする季節です。毎朝5時から経を読み、たく鉢をする場合も泊りがけは厳禁。そんなひきこもりの生活を送らなければならない雨安居が明けると、その後約1カ月間は袈裟がボロボロになった僧侶へ法衣が贈られる「カタン」という儀式がとり行われます。

このカタンは、カンボジア人にとって正月やお盆について大切な年中行事。法衣のみならず、寺の修復費用等を寄進する者も多く、金持ちは自宅に僧侶を招いて読経をしてもらい、それによって徳を積むと信じられています。読経が終わると親類縁者や隣近所を集めた食事会が開かれ、独特な踊りをする楽団が登場。こうなると本来の目的をすっかり忘れ、宴会と化すのはいずこの国も同じか……。

そもそもカタンの由来とは、雨期に釈迦(仏陀)に謁見しようとして雨の中を急いだ僧侶がびしょ濡れになり、これを哀れんだ仏陀が、「人々から法衣を寄進してもらおう」「道中木陰で食事をする」「たく鉢時には法衣や仏具が整っていないなくてもよい」などのお許しを出したことに始まります。それ以来、修行僧は信者からの法衣の寄進やお布施を受け取ることができるようになったそうです。

小市琢磨 / カンボジア・プノンペン在住



小市琢磨プロフィール

会社名：LOCOMO Co.,Ltd.

住所：25,Corner of 205 & 348 Street,Toul Svay Prey2,Chamkarmon,Phnom Penh

Tel. : +855-23-214490

Fax. : +855-23-366600

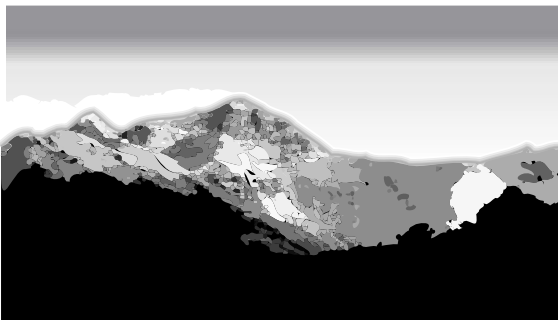
E-mail : info@locomo.org

URL : http://www.locomo.org/

事業内容：輸出入・物流・コンサルテーション・旅行業

生活の知恵なのです。伝統的なボリビア・アンデス地域の料理に使用されるチューニヨですが、独特な匂いがあるため、日本人を含め、アンデス地域以外では苦手な人も多いそうです。

参考 「インカの末裔たち」 山本紀夫著
日本放送協会発行
三浦孝 / ボリビア・サンタクルス在住



三浦孝 プロフィール

会社名：MIURA COMPUTER

住所：Calle Los Tapiosis,Santa Cruz,Bolivia

Tel & Fax : +591-3-489334

E-mail : bomiura@cotas.com.bo

事業内容：コンピューター販売(新品、中古)、コンピューター・メンテナンス、マルチメディアソフト製作、日本からの雑誌取り寄せ販売

ボリビア発 「乾しいモなめ乾燥ジャガイモ (チューニヨ)」

南米アンデス山脈はジャガイモやトマトの原産地で、ペルー、ボリビアでは、古くから100種類以上のジャガイモが栽培されています。なぜ、このように多種類の栽培が行われているかというと、天候不順や病害虫の発生など、もし何かあったとしても、最低限の食料を確保するためです。

このアンデス一帯では「チューニヨ」と呼ばれる乾燥ジャガイモが作られています。アルチ・プラノと呼ばれる、標高3,500メートルを超える高原で収穫されたジャガイモの一部は、野天にさらし、夜間の凍結と昼間の解凍を数日間繰り返します。その後、足でつぶして水分を取り去っていくわけですが、とれたてのジャガイモは78%が水分。この脱水作業により持ち運びも保管も大変に楽になり、長期間の保存にも耐えられる優れたものです。ボリビアのアルチ・プラノは熱帯に属し、直射日光が強い土地柄です。しかし、標高が高いために気温が低く乾燥しています。チューニヨの加工技術は、こうした厳しい環境の中で生き残るための